

会 議 録（確定稿）

会議名称	第四次西東京市地域福祉活動計画 第7回策定委員会
日 時	平成30年7月31日（火）午後7時～9時
会 場	田無総合福祉センター2F 視聴覚室
出席者	(策定委員) 小林委員・中村委員・多田委員・岸田委員・熊田委員・坂口委員・海老澤委員・三輪委員・鈴木委員・伊東委員・藤島委員・横山委員 (事務局) 池田・鶴野・小平・小口・浜名・妻屋・山田・関根・丸木・松山・本間・齊藤 (コンサルタント) 新橋、小林<株式会社 ジャパンインターナショナル総合研究所>
欠席者	伊田委員
配付資料	《事前配布資料》 資料1 第6回策定委員会会議録（未定稿） 資料2 第三次西東京市地域福祉活動計画 成果と課題 資料2-1 第三次西東京市地域福祉活動計画 成果と課題一覧表 資料3 第四次西東京市地域福祉活動計画 体系の考え方整理（案） 資料4 第四次西東京市地域福祉活動計画 骨子案 《当日配付資料》 （1）「第6回策定委員会」会議録（未定稿）
次 第	1. 第6回（平成30年6月5日開催）会議録の確認について 2. 第四次西東京市地域福祉活動計画 第三次計画の成果と課題について 3. 第四次西東京市地域福祉活動計画 体系案について 4. 第四次西東京市地域福祉活動計画 骨子案について 5. その他 6. 次回以降の日程、会場
決定事項	・ ・
会議の内容 及び 主な発言	※次ページ以降の通り

会議の内容及び主な発言

1. 第6回会議録の確認について

(副委員長)

- ・「第6回策定委員会会議録（未定稿）」（資料1）については、事前にご意見等をいただいているが、それ以外にこの場でご意見があればご指摘いただきたい。これは既にみなさんのご意見が反映されているのか。

(事務局)

- ・今回は、訂正等のご意見をいただけていないので、そのまま再度配付している。

(副委員長)

- ・何かあれば、いつも通り今週金曜日の終業時5時15分までに事務局にお寄せいただきたい。この段階では仮確定稿とさせていただきます。

2. 第四次西東京市地域福祉活動計画 第三次計画の成果と課題について

- ・事務局より資料2について説明

【質疑・検討事項等】

(副委員長)

- ・この課題を受けて、第四次計画に掲載すべきことを拾っていくことになるが、何かコメントご意見あればお願いしたい。

(委員)

- ・私は推進部会の居場所づくり部会長をしている。推進部会には、この他にも人材部会、情報部会があり、それぞれの部会長が第三次計画の進行管理委員会に出ているという状況である。他の部会に対してはあまりコメントすることはできないが、居場所づくり部会に対して幾つか質問、意見がある。資料2の「各部会活動の取り組み結果からみる継続的な課題」について、「公式マニュアルとするか等、位置づけを明確にする必要があります」とあるが、どういう根拠で、この表現になっているのか教えていただきたい。更に「サロンマップの作成やサロン活動者のネットワークづくりを検討する」の表記について、進行管理委員会の協議の中では、サロン連絡会というものを立ち上げることになっているが、部会では、サロンマップ作りやネットワークづくりについて、本格的に議論したことはない。なぜこういった形で課題として出てきたのか。もう一つの質問は、こういった問題を、実際に誰が、どうやって今後進めていくのかということだ。居場所づくり部会で立ち上げた「よってらっしゃい」のスタッフは、拠点でサロン活動を実際やっている人たちであって、居場所づくり部会員という認識はあまりない。そういった状況の中では、今後しっかりと計画に取り上げて、誰がどうフォローしていくのかを委員のみなさんにもよくご理解いただいて、その上で文章を作っていくべきだと思う。一旦出来てしまうと結局それが独り歩きしてしまうので、今後の考え方、持っていく方について教えていただきたい。

(事務局)

- ・資料2の「各部会活動の取り組み結果からみる継続的な課題」の内容は、進行管理委員会にてこれまでの活動を報告していく中で出された意見を載せている。これらについては、部会の取り組みとして部会員が取り組むとしているのではなく、部会の活動の報告を受けて、この先こういう可能性があるのではないかという意見である。そして、このご意見を踏まえて第四次計画に何を反映するか、この策定委員会等で引き継ぐものが有るか否かを、ご協議いただけたらという一つの提起の部分である。

(委員長)

- ・私は進行管理委員会において委員長を掌っている。まず1点目の公式マニュアル化の是非等については、社協事業の「りんく」「ふれまち」「ほっとネット」事業において、いろいろと居場所づくりが行われているなかで、「たくさん窓口があるからいい」という意見がある一方で、今回取りまとめていただいた「居場所づくり実践の手引き(マニュアル)」を今後、社協の公式マニュアルとして大々的に使うことも一つの方法である、また「別の形での使い方もある」という意見が出たということを示している。2点目の「サロンマップの作成やサロン活動者のネットワークづくり」については「今後マニュアルに従って次々とサロンが立ち上がっていくとなると、サロン同士のネットワークが大事になってくるだろう」という意見や「他の都市で行っているところもあるので、こういったことを西東京市でも本格的にやっていく必要があるのではないか」という意見が出たということを示している。

(委員)

- ・委員長の説明である程度は理解した。進行管理委員会の中で確かに委員長から話があったかと思うが、あまり深くは議論されていなかったと思う。私たち部会員がマニュアルを作った主旨というのは、第三次計画の中に「8ヶ所居場所をつくる」という壮大な計画があったが、実行するには、相当な人材や資源が必要になってくるということで、マニュアルを作って、それを活用してサロンを増やしていくこととした経緯があった。そのようなことから、この「公式マニュアルか、そうでないマニュアルか」という組織的な位置づけの是非を明記するのは違和感があった。2点目の「サロンのネットワーク化等」については社協の事業であって、部会がサロンマップの作成やネットワークづくり、サロン連絡会をやっていくことには無理があると思う。文章の表現を慎重にしてほしい。また、推進部会という計画を推進していく場があるので、そこで検討し、議論したうえで、この場に出すなどして欲しい。

(副委員長)

- ・確認だが、今協議されている資料2(5ページ)が、このままの形で活動計画の本文に差し込まれるというイメージでよろしいか。

(事務局)

- ・そのイメージである。目次でいうと第3章にあたりと考えている。また、先の意見については、「第三次計画の部会の方がこれをこのまま引継ぐ」ということではない。また、第四次計画としてどの部分を引継いでいくのかは、検討していかなくてはいけないと考えている。表現については、正確な読み取りができるよう、変更する必要があるので、意見をいただきたい。

(委員長)

- ・ここのタイトルが良くないと思う。「各部会活動の取り組み結果からみる継続的な課題」と書かれているが、課題ではなくて今後の展望ではないか。これから4、5年間取り組んでいただくなかで見えてきた新たな展望という意味である。3つの部会が意欲的に取り組んだからこそ次が見えてきたとご理解いただきたい。つまり公式マニュアルという表現は、それをどう考えていくかという展望として提案したものである。同じく「サロン」に関する取り組みについては、部会がこれまで取り組んできたから、マップ、ネットワークづくりをどうするかという部分が見えてきた。厳密にいうと居場所づくり部会の課題ではなくて、部会が取り組んできたことによって見えてきた次の展開という理解でよいと思う。タイトルを「課題」ではなくて「展望」としてはいかがか。課題は課題として切り分けてきれいな形に見えるような形にする等検討いただきたい。

(副委員長)

- ・次に、継続的な課題として、10個の提案があるが、全て語尾が「必要があります」とされている。ここでは、第三次計画で取り組んでこられたものを第四次計画にどう反映させるのか、あるいは第三次計画の取り組みまでで一旦収束するのかという部分の判断を、どうつけていく

かが重要であると思うが、現状の表現では、「必要があるけどやりません」なのか「必要があるので続けます」であるのかが曖昧で、投げ出された印象がある。やはり三次計画までの総括をしたうえで、継続的な案件、課題というよりは今後に向けての懸案という内容もあるので、やる、やらない等が明確になる表現にした方がよい。今後の展開をどうしていくかは、部会に関わる方々の検討が必要だと思う。

(委員)

- 私は情報部会に以前参加していた関係から考え意見を言うと、5ページ「情報部会」の項目に「若い人を巻き込み、自治会への加入を促しながら、必要とされる情報量を増やしていくことが大切」と書いてあるが、ここは実際に地域のお宅を訪問し、様々なアンケートを取った結果であり、実際に私が参加して感じた大きな検討事項である。若い層は、いろいろな情報端末で必要な情報を自分で調べられる時代になってはいるが、災害の時に自分だけ地域とつながらないなどの問題がある。そういうときのために例えば回覧板を回すなど、自治会に加入する上でのメリットを明確に打ち出した方が若い層を取り込めると実感している。

(副委員長)

- この中から継続的に取り組んでいくかどうかは、今後の骨子や体系並びに「施策の展開」という具体的な策の部分に盛り込まれていくと思うが、この部分を今後どうつなげていくか、はっきりさせた方がいいと思うが、事務局は今後これをどう扱っていくのか。

(事務局)

- これから「施策の展開」を協議する際、具体的に取り組み内容が出てくる。出てきた内容について、特に重要なこと、必要なものは是非、何個か施策の展開として入れていきたいと考えている。計画において継続の必要がないと判断する課題については、当然社協が受けなければいけない事項もあるので、その部分についても精査していただき、提示していきたいと思う。

(副委員長)

- この他、何かコメントがあればお願いしたい。

(委員)

- 私もこの第三次計画の進行管理委員会へ委員として参加している。前回挙げた意見がまとめとして出ているが、課題のことよりも、せっかく第三次計画で生み出された資産、成果物「居場所づくりのマニュアルや人材部会のタレント名鑑、特に情報部会のFacebook」などは、責任を持って運用しないと、せっかくの資産が残骸になってしまうという話が出た。ただ第三次と第四次の計画の作りが違うので、私の中で第三次計画の成果物を、どう第四次計画に引き継いでいけるかわからないところもある。ただせっかく生み出された資産は、計画でうまく引き継ぎ、そうでないものについては少なくとも社協で責任を持って運用することは最低限必要だと思う。

(委員)

- 意見ではなく質問だが、推進部会や進行管理委員会というのは何をするとところなのか。

(事務局)

- 推進部会というのは、委員や委員などが参加されているように市民の方にご協力いただいている第三次計画を推進していくための部会である。進行管理委員会については、第三次計画がどのような形で進んでいるのかについて進行を管理する委員会であり、本会で委員会を設けて進行を管理している。現在、委員長に進行管理委員会の委員長もお願いしている。

(委員)

- 私も先の委員と同じで、いろいろな部会があって、いろいろなところでみなさんがやっていることが、一般市民に伝わってこない印象を受けた。例えば「いこいなサロン」で助成金をいただくにあたっての説明会があり、そこでネットワークが必要だということで懇談会も開催し

ていただいたが、何が問題として見えてきたかという、参加者の拡充等「こういう方が来られていないのはどうしてなのか」という問題を投げかけても、結局はストップしてしまう。その問題を捨てていただいて進行していくも、いろいろな部会が一つになっていないので、結局はつながっていかないところが見える。やはりこの資料の中でも、さきほどの副委員長が言われたように「必要があります」という形でまとめられるだけで「どうするのか」という部分が見えてこないと感じた。それから「若い人を巻き込み」といっているが、若い人は若い人でPTAや小学校の区域の中の育成会などで行事として、かなり積極的に活動されていたりする。要はそれを私たちが知らないだけで、それぞれをつなげるネットワークがあれば、取り組みを知ることできる。その点をもう少し考えていって欲しい。それからこの策定委員会が、「誰もが来ていい居場所に、参加の必要があると思われる方が参加出来ていない現状」をもう少し具体的に考えていく会であって欲しいが、その部分についてこの資料では、一言も謳っていないと感じた。

(委員)

- ・第三次計画と第四次計画の資料を読んで、全体的なイメージは掴んだが、第三次計画は「市民が主体となって取り組むこと」を柱としていて、第四次計画では「社協が主体となって何に取り組むか」と書いてある。主体が変わって、取り組みの間口が広まっているので、分かりやすくまとめていただけたらと思う。

(委員)

- ・情報部会について、資料の4ページ「アナログな情報(回覧板・掲示板等)を再活用する」とあるが、私が住んでいる自治会は4、50年回覧板を回している。回覧板は確かに安否確認などいろいろな面でいいことがあるが、年配の方は、回覧板を回すのも負担になるのでやめたい、若い人は自治会回覧板を見なくてもインターネットなどで情報を得られるので必要ない、そして新しく来た人も入りたがらないという状況である。「取り組みと成果」に「新しく大学生の方などが力を尽くして、取り組みができた」とあるが、4、50年も続けてきた私たちからすると抜けていく人を引き留めることはできないというのが現状である。

(副委員長)

- ・成果については、今日特に意見をいただけていないが、委員の話にあったように第三次計画と第四次計画とでは作りが違っているので、「継続的な課題」をどう第四次計画へ反映できるか等、事務局には、本文への掲載のあり方について委員長と相談していただきたいと思う。

3. 第四次西東京市地域福祉活動計画 体系案について

- ・事務局、コンサルタントより資料3について説明

【質疑・検討事項等】

(副委員長)

- ・繰り返しになるが、基本目標については、これまで様々な方法で、市民の方、専門職の方等から意見を伺って課題を抽出し、そこから抽出された6つの目標となっている。これが根本から変わってしまうということはないと思うが、今日は、文言を含めたところまで十分に検討いただきたい。それにつながる「具体的な施策」(表の右側)についても、「この内容はこっちではないか」といった点も含めて意見をいただきたい。前回の委員会で挙がった意見も示されているので、確認いただき、質問などあればお願いしたい。

(委員)

- ・基本目標4の『「西東京市スタイル」で課題解決』について、特に「西東京市スタイル」というこの言葉でいいのか検討事項になっていると思うが、「西東京市スタイル」が、どこの範疇で取り組むことを指しているのか。資料にあるように「相談支援体制の構築」を、西東京市スタイルと理解すればいいか。

(副委員長)

・重要な視点だが、そのことについては各論に入るので、まずは、基本目標一つずつ見ていく中で議論していきたい。議論するのは「基本目標」の部分とそれに対する施策の部分だ。とりあえず一つずつ項目を順番に見ていきたい。「基本目標」ごとに、「表題」とその内容が()の中に示されている。具体的には、「基本目標1」の表題は、“我がまち”への愛着が持てる地域づくり、その内容が(地域コミュニティへの参加を促進)となっており、施策の展開項目として「居場所づくり、つながりづくり、安心・安全」としているところである。「参加を促進するための取り組み」が一番重要なところであると思うが、いかがか。

(委員)

・とても大切な部分なので、1番目に挙がっていると思うが「我がまちへの愛着が持てる」とこと、コミュニティへの参加が、あまりイコールに感じられない。

(副委員長)

・代替え案「()の中を言うならこういった表現がいい」などの意見でも構わない。今のところ「違和感がある」というご意見がでた。「施策の展開」で内容が三つだけのままか、少し増えていくのか等の議論もあるかと思う。地域コミュニティの参加促進という部分で「①居場所づくり」「②つながり」「③安心・安全」という三つに分けてあるが、この他に追加などあればご意見いただきたい。

(委員)

・基本目標は、大体こういう感じだと思う。この目標に基づいて施策を具体的に作っていく中で、「①居場所づくり」「②つながりづくり」は割と具体的に示していると思うが「安心・安全」は、具体性に欠けていて、もう少し具体的に表現したほうが良いと思う。他の項目も見ているとイメージができるような言葉になっているものと「一体何をやろうとしているのかな」と感じるものがある。2番目は「地域福祉に関わる活動の人材」と留めており、一体これをどうしようとしているのかイメージができないので、言葉遣いをしっかり検討したほうが良いと思う。

(副委員長)

・例えば「安心・安全な地域づくり」とか「コミュニティづくり」と表現をすることか。施策なので、動詞になるということによろしいか。

(委員)

・施策の展開「①つながりづくり」と入っているが、基本目標3「できることから始めるお互いさまの関係づくり」の「関係づくり」は「つながり」になるのではないかと思う。基本目標3は「お互いに助け合ったりすることだけを取り上げていることになってしまっている。「つながり」というと、いろいろなつながり方があって、描いているものが漠然と広い場合と、基本目標3のような「助け合っている」ことだけを指しているのとは、別の目標になると思うのですっきりしない。例えば「安心・安全」についても、別の目標のところに掲載してもおかしくはなく、関連してくると思う。基本目標1における「安心・安全のための地域づくり」と基本目標3の「助け合い・支え合い活動」とをしっかりと分けられず、難しく感じる。

(副委員長)

・今日このタイミングですっきり決まることはないと思うので、基本目標に対して施策が1つという関係は確定できないが、今日は特に基本目標の文言をある程度絞っていきたい。

(委員)

・「施策の展開」1番目の「①居場所づくり」「②つながりづくり」は、これまでのいろいろな部会や集まりなどで出た意見が基になっていると分かるが、「安心・安全」は、災害、防災に関係するところに大体出ているので、基本目標1からは、外れるのではないかと感じた。

(副委員長)

- ・防犯などが入ると変わってくると思う。

(委員)

- ・感想として、基本目標1に「我がまちへの愛着が持てる地域づくり」を掲げているが、すごく地域コミュニティが重要だと思う。私が聞いているところによると自治会の加入率が、西東京市は19パーセント位ということで、他の自治体では60パーセントと、かなりの自治会加入率である。そんな中、西東京市で新たな自治会を作っていくというのは難しく、自治会に代わるものとして新しい地域コミュニティを発掘していかないといけないと感じるので、第四次計画の1番目に盛り込んであり、やはり重要なことだと考えている。

(副委員長)

- ・「コミュニティ」イコール地縁ということだけではなく「おやじの会」とかPTAなど、いろいろな形でのコミュニティという文章がこの1番目に盛り込まれるべきかと思う。

(委員)

- ・基本目標1「我がまちへの愛着が持てる地域づくり」を読んで、居場所づくりとか、取り組むところの発想としては、個から見た地域の観点というようなイメージを持ってしまった。私の立場からしたら、団体、社会資源、社会福祉法人などに関しても、地域が大きなテーマになっているので、それを包括できるような基本目標の言葉があればいいと思った。

(副委員長)

- ・「我がまちへの愛着」というところを検討する必要がある。「地域コミュニティへの参加を促進」の部分は誰も異論はないと思う。
先に2番目へ進めたい。基本目標2「地域福祉を担う人づくり（福祉人材の育成）」、施策の展開は、「地域福祉に関わる活動の人材」となっているが、やはり動詞にしていくべきであるが、文言を含めてご意見があれば伺いたい。

(委員)

- ・計画を市民の方たちが読んだときに、この表現だと、もしかすると「福祉職の人材」であって、「私（市民）」とは、感じられないのではないかと思う。

(副委員長)

- ・確かに「福祉人材」といわれると、策定委員の方たちのような感じがするかもしれない。2番目は、施策に少し具体性を帯びたものにしたらいと思う。
特にないようなので、3番目へ進めたい。基本目標3「できることから始めるお互いさまの関係づくり（地域の課題解決力強化）」としているが、先ほど意見があったように基本目標1に非常に関係がある。表に出ているテーマ「できることから始めるお互いさまの関係づくり」と()の中が、少し齟齬がある気がするが、意見をお聞きしたい。これは「課題解決力強化」のための手段として、お互いさまの関係づくりという意味で、課題解決力強化を柔らかい言い方にしたということではないかと思う。この場で決定版のキャッチコピーをいただいても構わない。

(委員)

- ・基本目標2と基本目標3が一緒であったものを分けたと記憶しているが、前回委員会意見の「課題解決力を発掘する」は、どちらかという基本目標2に近いと思う。地域福祉を担う人づくりイコール新規で加入してくれる人を発掘するといった、「つくる」には発掘するという意味も入ると思うので、基本目標2の「福祉人材の育成」に盛り込んだ方が分かりやすいと思う。

(委員)

- ・基本目標3「できることから始めるお互いさまの関係づくり」の「できることから始める」という表現はすごくすっと入る。つまり「大きなことではなく、誰でもできることからスタートしよう」といった内容は理解できる。一方で「お互いさまの関係づくり」とはつながらない。お互いさまの関係も大事だと思うが、その二つを無理矢理つなげることが、取り組み内容であ

る（地域の課題解決力強化）になると感じられず疑問に思う。だからここでイメージされている課題解決力が逆に狭まった目標になっているようであり、二つのことを無理にくっつけた印象になる。基本目標3の表記については、何を一番の目標に挙げたいのかが腑に落ちない。

（副委員長）

- 施策からいうと「助け合い・支え合いの活動」によって地域の課題解決力を強化するという方向になるのではないか。

（委員）

- 全体的に「基本目標」を見ていて感じたのは「～づくり」ときれいにまとめてあるが、目標というと「こういうことをしよう」ということをイメージするので、（ ）書きの方を強調してはどうか。例えば基本目標3であれば「この地域の課題を解決するために、できることから始めよう」といった表現が目標だと思う。資料では、とてもきれいなまとめ方をしているので「結局ここでは何を言いたいのだろう」という感じで引っかかってしまっている。

（委員）

- キャッチフレーズとして「お互いさま」という言葉をどういったニュアンスで使っているのが良く分からないが、一般的には、「お互いに双方で迷惑を掛けあうが、それはお互いさまで」というニュアンスで捉えると思う。だからここで言っている「お互いさまの関係づくり」が伝わってこない。先ほど委員からあったように、すっきりと分かるような言葉にした方がいいと思う。

（委員長）

- 今、皆さまの話を伺っていて思ったが、思い切って「我がまちへの愛着を持てる地域づくり」などの文章を取ってしまって「地域コミュニティへの参加促進」などとした方が分かりやすいと思う。ほとんど（ ）内の項目については意見が出ていないのに、分かりやすくしようとしてつけ足した文章が分かりにくくなっている。作業を進めていく中でもし、いいワードが見つかったら、そこでキャッチフレーズを付けていくことにして、初めから文章をつぎ込むのは止めた方がいいと思う。どんなに話し合っても結果的に「ああでもない」「こうでもない」といった話になってしまう。それは多分本質ではないからである。だから本質の部分は（ ）内の内容であると思うので、今は、（ ）内が本質であるかをしっかり議論して、分かりやすくするにはどうするべきか検討してから段階を踏まないといけない。

（副委員長）

- キャッチコピーは、まだまだ検討できると思う。もちろん、新たに六つ考えていただく方法もあると思うが。ただ（ ）内は、そんなに異論はないと思う。さらに、今の意見をとらえれば、基本目標3のテーマは、「地域の課題解決力強化」とし、それを鈴木委員の言葉で言い換えれば「地域の課題解決力強化をみんなでやっていきましょう」となる。この目標で言えば、「できることから始めるお互いさまの関係づくり」は「助け合い・支え合い活動」を導き出したいというように、恐らく（ ）内はきちりとした基本目標といった感じであるが、上ののっているキャッチコピーの部分は、右側の施策を、匂わせるような内容になってくるもの考える。委員長がいわれたように、基本目標のワーディングの中から、具体的取り組みが生まれるようであれば、少しアイデア、ヒントをお出しただいて、事務局に引き取っていただけたらと思う。では基本目標4『西東京市スタイルで課題解決』へ進めたい。先ほどから「西東京市スタイルとはどのレベルなのか」などの話が出たが「包括的な相談支援体制の構築・コーディネート」だけでなく、コーディネートの要素も必要ということで冒頭意見が出たが、これについてはいかがか。

（委員）

- 今悩んでいることがある。田無総合福祉センターで開いている社協事業の「はつらつサロン」

に参加している方々が、1年間受講して卒業する。受講される方たちは、要支援の方たちではないかと思う。そのサロンを卒業した中の2人が「これから自分たちは、どうしていけば良いか」悩んでいて、社協の相談窓口などを紹介しているが、どこまで私が、その方たちを支えていくべきか、負担にもなり悩んでいる状況だ。社協の担当の方は「何かあれば相談してください」と言うが、結局私のところへ戻ってきてしまうので、どこへつなげたらいいか悩んでいる。この基本目標4は切実たる問題である。

(副委員長)

- ・「西東京市スタイル」という言葉が生まれてきている経緯を、少し事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・「西東京市スタイル」については、今の段階では明確なものはないが、私ども社会福祉協議会については、30年近く「ふれあいのまちづくり事業」を、また「ほっとネット」「りんく」など、いろいろな地域福祉事業を行っている。それら事業は総合的に課題を解決していこうという形になっているもので、それに加えて、社会福祉法人連絡会、地域包括支援センターなど他の団体の皆さまとの連携で、包括的に解決に向けて取り組んでいくことが、今後「西東京市スタイル」になっていくのではないかと考えている。ただ、明確に「こういったことをやります」とは出来ていないが、できれば包括的に連携した形で「全西東京市で頑張っていこう」というスタイルになっていくのではないかと考えている。

(副委員長)

- ・いろいろな支援のネットワーク、スキルや制度に乗ったものを、包括的あるいは統合的にしていこうということではよろしいか。

(事務局)

- ・それが一番の目標になってくると思う。

(委員)

- ・「西東京市スタイル」は、あくまでも市民レベルではなくて、市と市民を総合的に混和したものではないかと私は思っている。西東京市はいい施策をやっていると私は感じているが、あまりPRしていないので、市民によく理解されていない面もあると思う。西東京市は、「しゃきしゃき体操」の普及や「フレイル予防」といった福祉、医療について相当の資源をつぎ込んでいく。他のお金持ちといわれる行政でも有料なのに、健康診査など原則無料でやっている。そのように知られていないことが、いろいろ施策として出ているが、まだまだそれらをまとめきれないで、それが効果的に広がっていくと、相当大きな力になっていくだろうし、それが「西東京市スタイル」というようなものではないかと思っている。

(副委員長)

- ・「西東京市スタイル」という文言が最後まで残るか分からないが、「包括的な相談体制」の言葉をとがらせて「西東京市スタイル」と呼んでいく、これまで既存の様々な優れた体制やネットワークを統合化していく、そういった部分を示しているという気がしている。

(委員)

- ・「西東京市スタイル」は恐らく、東社協の地域福祉推進検討ワーキングの報告をした際に、包括的な相談支援体制のことを「東京スタイル」と東社協で命名していたので、それにちなんで付けてくださっていると思っている。地域福祉コーディネーターと社会福祉法人のネットワークと民生委員3者の連携体制のことを東社協では「東京スタイル」と呼んでいる。それをそのまま東京都内全部の福祉で同じ体制が取れる訳ではないので、やはり西東京市の相談支援体制をどうするか、施策として考えていかなければいけないと思う。個人的には「西東京市スタイル」と付けていただけると、こちらとしても中間まとめの報告のしがいがあったと思うが、別にこの名称を残して欲しいということではない。

(副委員長)

- ・今年活動計画を作っているところが他にあるのか。

(委員)

- ・ある。

(副委員長)

- ・西東京市が一番乗りになるかは分からないということか。

(委員)

- ・東社協の職員が策定委員として参加していないところもあるので、全部を把握しているわけではないが、私も西東京市以外でも策定委員として関わっているところもある。ただ、こういった形で意識して取り上げてくれているところはあまりなくて、他のところでもご質問があれば説明しますと売り込んでいく状況ではある。

(委員長)

- ・この「西東京市スタイル」の表記について、この策定委員会で「西東京市スタイル」という文言を活動計画で使うことを決めた場合は、整合性を考えると市の計画にも盛り込まないといけなくなると思う。現状、市ではそういった話が出ていないので、市の計画にも提案をする形になると思う。万が一、市の方で却下された場合どうするかも議論としてあるが、つまり社協のシステムだけを説明しているものではなくて、あくまでも市のシステムを「西東京市スタイル」と呼ぶのであれば、市の地域福祉計画でも取り上げなくてはならない。その点は共有させていただきたい。

(副委員長)

- ・内実的にはそういったこともあるということで、包括的にやっていくということである。では、基本目標5「一歩前へ、を後押しできる情報の発信（情報提供体制の充実）」に進みたい。キャッチコピーに捉われず、施策は四つ掲げられているので、これ以外に必要なものがあるかどうか議論いただきたい。

(委員)

- ・先ほど「西東京市スタイル」で意見があったが、既存の資源や今ある福祉サービス、ネットワークなどを限定するのではなく、市民が見落としているであろう西東京市の取り組みを再構築することが、目的を達成することになると思う。「施策の展開」に「福祉サービスの情報」など具体的な項目別の情報に関しては書いてあるが、今後それらを充実させていくために「もう一度調べる」という内容も施策の中に入れたら良いと思う。

(副委員長)

- ・「調べる」とは。

(委員)

- ・「調べる」とは、こういった情報を発信するために、今西東京市がこういった状況か、随時更新していくなど、取り組みを社協レベルの話ではなくて全体的にもう一度整理し直すことが大事だと思う。

(副委員長)

- ・いいことをやっているのに、そんなに目立っていない部分を明るみに出すことが情報提供ということかと思う。

(委員)

- ・今日の資料を読んだ中で「不安」という言葉があった。その中のトップに高齢者、お子さんのいる親御さん、障がい者の方々が一番不安に思っているのが「近隣の情報」「緊急時、災害時」

に入っている。これは皆さんが抱えている大きな問題なので大事にしていきたい。

(委員)

- ・「施策の展開」に四つの情報があるが、どれも福祉サービスの中に入ると思う。例えば居場所、ボランティアなどいろいろなものがあるが、これを目に見えるような形で発信すべき情報として言葉を整理して入れて欲しい。

(委員)

- ・情報を受け取る側をみると、若い世代などインターネットを使える人と、高齢者のように携帯も持っていない人等いろいろな人たちがいるので、市報や市役所にある手引きなどの紹介についても、全部をすぐ知ることができるように明確化することも情報の体制で必要だと思う。受ける側に、しっかり情報を受け取れる人と受け取れない人がいることをしっかり考えていただくような発信の仕方であって欲しい。私は居場所の活動に携わっていて、掲示板などを使って告知をしているが、その掲示板もどこにあって、毎月の手続きも大変であったりするが、それがすぐに教えてあげられるような、いろいろなところに情報のヒントを盛り込んでいただけるとありがたい。

(副委員長)

- ・冷蔵庫に貼るマグネットみたいなもので「ここへ行けばいい」と分かるような形があればよいかもしれない。

(委員長)

- ・今の委員の話聞いていて「なるほど」と思ったのが、ここに並んでいるのは、全部情報の内容である。つまり近隣の情報とか緊急時、災害時、福祉サービスなど情報以外に質の話をしているが、もう一つは、その発信方法である。例えば福祉機関とか、回覧板、公民館、そういう発信の主体みたいなものを整備することもある。こういった立て方をすると、施策の展開としてきれいか。発信の方法については、ここで取り上げられていないので、そういった部分を検討してもいいのではと思った。

(副委員長)

- ・先ほど委員が言っていた、第三次計画につながることで、世代によって使う情報チャンネルは違うので、世代に応じた多様な情報チャンネルを構築することを施策として入れておくといいと思った。では基本目標6「社協ファンを増やすための基盤・運営強化（「西東京市スタイル」を支えるための社会福祉協議会の基盤・運営強化）」何か意見あればお願いしたい。実は一番大議論しないといけないと思っている。事務局との打ち合わせの時に、計画を策定、推進する社協について、基本目標6「社協の基盤強化」という目標が拳がっているが、図では、全ての基本目標を取り囲んでいる構図になっている。どちらかというとな下支えをするという図柄の方がいいのではないかと、基本目標1～5の楕円の下に来て支えるというイメージではないかという話をした。一番肝のところなので、どういうキャッチコピーが出てくるのか、そのあたりは事務局と相談しながら進めていきたい。

4. 第四次西東京市地域福祉活動計画 骨子案について

- ・事務局、コンサルタントより資料4について説明

【質疑・検討事項等】

(副委員長)

- ・骨子というか柱立て、ページ立てについてだが、80ページ位になるという想定である。当然、概要版みたいなものも作ると思うが、計画の一番の肝は第5章、6章、7章だと思う。そのあたりを中心に概要版を分かるように作られるということだ。この骨子案が本書ということで説明があったが、「こういうのを入れたほうがいい」などのアイディアがあれば、意見をいただきたい。

(委員)

- 委員長にもお聞きしたい部分でもあるが、高齢者保健福祉計画等の計画を立てたときには、地域包括ケアシステムをかなり意識して計画に盛り込んでいたという状況があった。多分それは、ある意味高齢者に特化した形で「いつまでも住み慣れた地域に住み続ける」という題目になっており、合わせて、共生社会というところが必ず入ってきて、当然高齢者だけではなく子どもからお年寄りまでと言われている。この第四次計画の中には、地域福祉計画との整合性も含め、そういった文言についてはどのようにとらえているのか。

(委員長)

- 地域福祉計画も関わっているという立場で回答させていただきたい。今、市の計画では委員が話されたように、いわゆる「我が丸」や「地域包括ケア」等の取り組みをどう捉えるかということが議論として出ていて、それぞれの計画で掲げていることが異なっているのはおかしいので、今回あえて事務局の方で意図的に外されたのではないかと思う。ただ、市で掲載した重要事項が、この活動計画の中に一緒に載っていないといけないと思っているので、市と社協で連携を取っていただきたい。西東京市版の「我が事・丸ごとの地域共生社会」や、高齢者保健福祉計画で既に示されている地域包括ケアシステムがどう描かれているかを前提とした地域福祉活動計画になると思うので、しっかりと計画にも掲載していくことが重要かと思う。「地域包括ケアシステム」については、高齢者の計画の中に完成版として載っているのので、それをこの活動計画の中に一律載せるというのもどうかと思うが、地域共生社会については議論の途中であり、可能であれば、一度策定委員会でも「地域共生社会をどう考えるか」というところをご意見いただきながら、併せて市の計画と整合性を図っていくことをやってもいいかと思った。

(副委員長)

- 地域共生社会については、本骨子案の第1章で、計画策定の背景として一行だけ入っているが、「我が丸」は入っていない。この第1章の部分を膨らませる中で地域共生社会のことも触れることになるだろう。記載されている「SDGs」については、この概念が記載される初めての活動計画になるかもしれないので、これらを文章化する際にしっかりと認識いただけたらという気がしている。最初に意見を述べると、肝となる第5章に入るまでの分量が結構多い。例えば第2章の「アンケートの概要」や懇談会の概要を巻末にまわせば、本題の部分を何ページか繰り上げることができると思う。第1章は絶対必要であり、3章の振り返りなども必要である。事実概要のところはなるべく短めがいいと思う。

(委員)

- 第四次計画は、多分80ページ以上になり、第三次計画とはガラリと変わるということで、これはかなり大きな変化に見えるかと思う。確かにあまりページ数があると読むだけで疲れると思うので、なるべく言いたいことをコンパクトにしてまとめる工夫をして、データだけの部分については後ろに入れ、そこから読み取れるものについては活かすということでもいいと思う。今副委員長の話にあったように、もう少し見た人がすぐにこの計画がどういうものか分かるような構成になればいいと思う。

(副委員長)

- 例えば第三次計画に登場していた「福しんごうくん」のイラストを入れていくなどのイメージはあるのか。

(事務局)

- 「福しんごうくん」は西東京市社協のキャラクターであり、計画書の中にも入れていくことになると思うが、まだどのように入れるかは検討していない。

(副委員長)

- そういうイラストを入れて、硬い文章だけではないということか。

(事務局)

- そのとおりである。やはりイラストを交えて、分かりやすくなるように考えている。

(副委員長)

- 今のようなプラスアルファの部分への意見でも構わない。

(委員)

- 「これを果たして市民の方が手にして見るのか」というのが第一印象で、イメージのイラストなどで、子どもや親子で見ることが願いだ。市民だったら誰もが見ることのできる形が理想だと思う。やはり高齢者など文字が多いだけで拒否する人もいるので、図式でインパクトがあるとか、データも分かりやすくといったところも工夫していただきたいと思った。

(委員長)

- 事前打ち合わせで、今の話にあったように、「福しんごうくんの冒険」などを入れてはどうかという意見が出ていた。現状のものは確かに読みにくいということもあるが、計画書とはこのようなものだとも言える。そう考えたときに、概要版を作る際に少し遊び心を入れるなどがあってもいいとの話も出たので、今後も議論していきたい。できるだけ手に取ってもらえる形で「読んで楽しいな」と思えるようなものにするために、委員の皆さまの知恵や意見をいろいろ聞きながら作っていければいいと思った。

(副委員長)

- 誰に読んでもらうか、どういった年代に読んでもらうかで、例えば文字の大きさの基本を幾つにするか、何年生までの漢字を使うかなどを、気にしながらやっていきたい。最近「インフォグラフィック」という言葉を使うが、同じデータでも少し図柄にして見やすくするとか、いろいろな要素はあると思うので、また事務局で少し知恵を絞っていただいて、見やすく分かりやすいを、考えながら楽しく概要版にまとめられたらいいと思う。

5. その他

- 事務局より西日本豪雨災害支援金協力をお願い

6. 次回以降の日程、会場

- 日時 平成30年8月28日(火) 19時~21時
- 会場 田無総合福祉センター(2F)視聴覚室